

ライフサイエンスイノベーション推進機構 トランスレーショナルリサーチ推進センター

日時：平成22年3月2日（火）17:30～18:30
会場：松岡キャンパス臨床研究棟1階会議室

（旧 ライフサイエンス支援センター会議室）

演者：古川 雄祐 先生
自治医科大学分子病態治療研究センター
幹細胞制御研究部・教授

演題：エピジェネティクスの理解からの新規
治療薬の創出

【要 旨】

エピジェネティクスとは DNA 塩基配列の変化を伴わない遺伝子発現の制御機構で、同一の遺伝子型を持つ細胞に異なる機能を付与する仕組みである。メカニズムとしてヒストンの化学修飾と DNA のメチル化が知られており、クロマチンの構造を改変して遺伝子発現を変化させる。エピジェネティクスは生物学的多様性の発現とくに発生や分化、ストレス応答など同一個体において時空間的な遺伝子発現変化を必要とする局面で役割を発揮する。また最近の研究から、がんや COPD・糖尿病などの発症にかかわっていることが示されている。エピジェネティックな変化はジェネティックな変化（遺伝子配列の変化）と異なり、薬剤によって人為的に改変できるという特徴があり、臨床的にはより重要性が高い。実際、エピジェネティクスを標的とする治療薬の開発が進んでおり、HDAC 阻害剤・DNA メチル化阻害剤などがすでに臨床応用されている。

教職員、大学院生の皆様のご来聴をお願いいたします。

本学内セミナーは、教育研究高度化推進のための支援体制整備事業「世界的研究拠点形成支援プロジェクト」からの援助を受けています。

〔福井大学トランスレーショナルリサーチ推進センター〕